

令和4年4月12日
乳幼児教育・保育支援課

教育総合センターメッセ等の実施結果について

1. 主旨

子ども支援、保護者支援、教員支援の機能を備えた「学びのステーション」として開設した教育総合センターを拠点に推進する世田谷の教育について、実践例の紹介、研究成果の発表、幼稚園・保育園の合同研修、乳幼児期の遊びや学びの体験の提供等を実施した。

あわせて、教育総合センターと高校・大学・特別支援学校等との連携の契機とすべく、区内高校・大学・特別支援学校を対象として、教育総合センターの施設見学会を実施するとともに、意見交換を行ったので報告する。

2. 概要

(1) 日時

令和4年3月26日（土）午前10時から午後4時

※高校・大学等の施設見学会及び意見交換会は午前10時30分から午後0時30分

(2) 会場

世田谷区立教育総合センター（世田谷区若林5-38-1）

えがおの森（区民交流エリア）、各研修室、ほっとスクール「城山」ほか

※高校・大学等の意見交換会は、研修室2（つき）及び研修室3（ほし）で実施。

(3) 対象者

就園・就学前の幼児、小学校・中学校の児童生徒とその保護者、区民等、公私立幼稚園・保育所等の教員・保育士（合同研修）、区内の高校・大学・特別支援学校関係者

3. 参加人数

一般区民 延べ約300名（研修及び意見交換会の参加者を含む）

4. 主な実施内容

◎1階：STEAM教育講座（研修室1、らぼラボ）、光と影のアート体験とグラフィック体験（えがおの森、アトリエ）、遠隔授業の研究成果パネル展示・児童生徒の作品展示（エントランスホール）

◎2階：ICTを活用した学びの体験（研修エリア）、わくわく運動遊び（屋外広場、研修室2）、講演「乳幼児期における運動体験」（研修室3、研修室4）、教育相談室、ほっとスクール城山の紹介（ほっとスクール「城山」くつろぎの部屋ほか）

5. 世田谷区立教育総合センター開設に伴う施設見学会及び意見交換会について

(1) 目的

区内高校・大学・特別支援学校を対象に、教育総合センターの目的・機能等に関する理解を深めていただくために、施設見学会を実施した。また、各学校の特色や資源を活用した教育総合センターとの連携の可能性について意見交換を行うことで、区内高校・大学・特別支援学校と教育総合センターとの連携を促進する契機とした。

(2) 参加者

大 学：国土舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、テンプル大学ジャパンキャンパス、東京都市大学、日本女子体育大学、日本大学文理学部、日本大学危機管理学部、日本大学スポーツ科学部 9校

高 等 学 校：駒澤大学高等学校、深沢高等学校、松原高等学校、園芸高等学校、総合工科高等学校、世田谷泉高等学校、世田谷総合高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、東京学芸大学附属高等学校 9校

特別支援学校：光明学園 1校

区 側：区長、教育長、教育監、交流推進担当部長、経済産業部長、せたがや自治政策研究所長、教育総合センター長、政策研究・調査課長、教育指導課長、乳幼児教育・保育支援課長、教育研究・研修課長、教育相談・支援課長、教育支援特命担当副参事

(3) 意見交換会

テーマ：「教育総合センターと区内高校・大学・特別支援学校との連携の方向性について」

〈主な意見〉

① STEAM教育、スポーツ、文化・芸術、英語について

- ・ 世田谷プラットフォームの6大学の中で教育プログラムが作れたらと考えている。
- ・ 環境教育、STEAM教育やSDGsなどで連携できればと思う。
- ・ ダンス学科等があり、芸術や表現等のツールとして何かお手伝いできればと思う。
- ・ 英語教育のサポートや海外からの移転者で日本語ができない方への支援等、ボランティア活動などを通じて連携できると感じた。

② 不登校、特別支援教育について

- ・ 不登校児の進路を不安に思う方も多いため、ほっとスクールの保護者会等の場に高校も参加できる機会があれば良いと思う。
- ・ 区の不登校特例校と自校の生徒と交流ができればと考えている。
- ・ 知的障害や発達障害の老若男女問わずできるスポーツ活動を実施しており、特別支援学校との繋がりも持てればと思う。

③ 地域との連携について

- ・ 地域連携のための組織を再編したので、区との連携を深めていきたいと考えている。